

AMANO Sustainability Report 2025



天野の精神

—創業者の言葉—

無から有を創れ

事業ビジョン
Speciality Enzymes
for
Every Industry

企業理念

慈善

事業を通じ社会に貢献すること、価値を生み出し、社会に還元することこそがわたしたちの考える「慈善」の心です。常に高い視座をもち、健全な事業活動を継続します。

開拓者精神

社会の課題、お客さまの声に真摯に向き合い、独自の発想を伝統と最新技術の融合により商品化し、新しい価値の創造を通じて社会に貢献します。

共生 (ともいき)

社会の持続的な発展のため、「環境・地域社会との共生」「お客さま・お取引先との共生」「社員・株主との共生」の実現に尽力します。



目次

1	企業理念	11	わたしたちの事業	17	天野エンザイムの重要課題と2030年までの目標
1	目次	13	サステナビリティビジョン		Pick Up! 天野エンザイムの取り組み
3	天野エンザイムの歩み	15	天野エンザイムの目指す姿		
5	トップメッセージ	16	マテリアリティ決定プロセス	35	天野エンザイムの取り組みとSDGsとの関連
9	ブランドスローガン 酵素—無限の可能性を求めて			37	グローバル拠点

編集方針 本報告書は持続可能社会実現へ向けた天野エンザイムの考え・取り組みを、ステークホルダーの皆様にご報告することを目的にご報告するものです。社会課題を基に作成したサステナビリティビジョンに沿って、「食と健康を未来に」「自然との共生」「社会からの信頼」「多様な人材の活躍」「健全な企業経営」の各分野での天野の目指す姿、取り組みを掲載しています。

対象期間 2022、2023、2024年度(2022年4月1日～2025年3月31日)の活動を中心に、適宜最新の話題をご紹介します。

発行年月 2025年8月

会社情報	社名 天野エンザイム株式会社	事業内容	医薬用、食品・工業用、診断薬用酵素剤の製造ならびに販売
	設立 1948年(昭和23年)		医薬品、動物用医薬品、飼料添加物の製造ならびに販売
	創業 1899年(明治32年)	資本金	390百万円
		従業員数	480名

創業126年、酵素とともに歩んだ77年

天野エンザイムは、自然界における酵素の動きに着目し、酵素を人々の生活に役立てることを目指して、1948年から70年以上にわたり、一貫して酵素の研究と製造に携わっています。



天野 圓之助



天野 源一



天野 源博



ニホンコウジカビ

創業
1899

配置売薬

酵素製造
開始
1948

新薬 / 一般薬・酵素

酵素事業
への特化
1996

“World No.1 Speciality
Enzyme Producer”

Speciality Enzymes
for Every Industry
2024

創業
1899

1910

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

配置売薬業を
創業
1899

天野慈善堂製薬所
創立
1928

天野製薬
設立
1948

天野エンザイム
社名変更
2000



発売された製品群

- 1899 天野圓之助、配置売薬業を創業
- 1928 天野慈善堂製薬所創立
- 1939 天野源一、一般薬拡販のため中国進出
- 1948 天野製薬設立、医薬用酵素(麦芽ジアスターゼ)の製造開始
- 1950 西春工場操業開始(微生物消化酵素ピオデアスターゼ)
- 1957 天野式通気製麹装置特許取得
- 1960 総合酵素研究所完成
- 1961 食品工業用酵素の製造開始
- 1969 名古屋工場操業開始
- 1970 診断薬用酵素の製造開始
- 1976 養老工場操業開始

- 1980 中国での補償貿易(パンクレアチン)
- 1981 アマノ・インターナショナル・エンザイム社を設立
→1992年 Amano Enzyme U.S.A. Co., Ltd. 設立
- 1983 ヨーロッパ駐在員事務所開設(ドイツ)
→1992年 Amano Enzyme Europe Ltd. 設立(英国)
- 1996 酵素事業への特化、“World No.1 Speciality Enzyme Producer”
- 2000 岐阜研究所(現イノベーションセンター)開設
- 2000 天野エンザイム株式会社に社名変更
- 2001 大和化成(株)の過半数の株式を取得
→2013年 天野エンザイム滋賀工場へ
- 2007 中国販売会社(上海)設立
- 2009 中国製造会社 Amano Enzyme Manufacturing (China) Ltd. 設立
- 2018 中国製造会社と中国販売会社(上海)が合併
- 2018 Amano Enzyme Asia Pacific Co., Ltd. を設立(タイ)
- 2021 ハノイ駐在員事務所開設(ベトナム)



Amano Enzyme U.S.A. Co., Ltd.

酵素の無限の可能性が拓く、持続可能な未来へ

天野エンザイム株式会社
代表取締役社長

天野源之

無限の可能性を持つ微生物

天野エンザイムは1899年に創業し、1948年に酵素製造を開始して以降、70年余りに亘り世界各地に酵素を提供してきました。その技術は、伝統的な和の文化や風土によって生まれ、受け継いできたものです。日本には醤油、酢、味噌のように、先人たちが見えない酵素の力に気づいて生活に取り入れ、自然と共生していく伝統の精神が根づいています。

いま、バイオテクノロジーは持続可能な社会を実現するために不可欠な技術として、かつてない程の期待が寄せられています。バイオテクノロジーの中核を担う酵素に対しても、注目が高まっているように感じています。

この背景には、微生物が秘める無限の可能性があります。人類が発見している微生物は全体のわずか0.01%と言われていています。私たちは、主に微生物を培養することによって酵素を製造しています。したがって、新しい微生物の発見が、新しい酵素の発見につながります。この未知の世界には、私たちの想像をはるかに超える無限の可能性が秘められていると考えています。

拡大する酵素活躍の場

これまで、当社の事業領域は食品やメディカルの分野が中心でした。しかし今、その領域は大きく広がろうとしています。特に注目すべきは、新たな工業分野への展開です。世界が化石燃料への依存から脱却を目指す中、循環型社会の実現に向けて酵素が果たせる役割は計り知れません。様々な産業で酵素の活躍が期待されています。こうした潮流を捉え、酵素で社会課題の解決に貢献するために、2024年に「Speciality Enzymes for Every Industry」という新たな事業ビジョンを策定し、実行に移しています。

バイオテクノロジーへの期待が高まる一方で、課題も存在します。例えば、石油化学製品をすべて



バイオ由来に置き換えるのは、経済合理性の観点から容易ではありません。しかし、近年のコンピューターサイエンスによる分析技術の飛躍的な向上が、この課題解決の可能性を大きく広げています。機械学習などの人工知能の進歩により、新しい酵素の設計や微生物の代謝経路の最適化が可能になりました。このような技術の進歩が、日々新たな可能性を生み出しています。先端技術の活用の他にも、自然の中に既にある偉大な恵みを「発見」という、自然と共生する日本的なアプローチも、私たちは大切にしています。自然の中には、人の想像を超えた酵素を生み出す微生物が存在しているからです。だからこそ、破壊的イノベーションを生み出すのは、むしろ育種やスクリーニングのような伝統の技術ではないかと考え、世界では珍しい手法での挑戦を続けています。粘り強く研究開発を続けることで、必ずブレイクスルーを成し遂げられると考えています。

グローバル化と日本の強み

企業の成長に伴い、海外への売上が高まる中で、日本固有の強みを活かしつつ、最先端技術を取り入れていくことが重要です。日本に本社を置く企業として、両者の良い点を活かしつつ、世界に通用する独自の価値を生み出していくことが、私たちの使命だと考えています。

日本には古来より、自然との「共生」を重んじる思想があり、持続可能な知恵が数多く存在します。例えば、伊勢神宮には千年以上前から式年遷宮という、20年に一度社殿を建て替える儀式があります。解体された木材は、全国各地の神社などでリサイクルされ、将来の建材となる樹木は200年という時間軸で計画し育成されます。自然と関わりながら技術や恵みを将来へ受け継ぎ、資源を循環させる持続可能な考え方は、まさに時代を超えた普遍的な知恵として、私たちの事業活動にも大きな示唆を与えています。

また、京都の曼珠院門跡には菌塚があり、人類の発展のために犠牲になった無数の菌の命を慈しみ、讃えています。たとえ目に見えなくても、命ある生き物として、微生物に対し感謝を捧げる精神は、私たちの事業の根底にあるものです。この仏教や神道を基にする慈しむ心が、様々な場面で菌のわずかな違いに気づく感性を磨くことへとつながります。



菌塚

このような考え方は、持続可能な社会を目指す現代においてこそ、大きな価値を持つものです。一方的に押し付けたり依存したりするのではなく、一緒になって課題の解決に取り組む姿勢は、ますます複雑化する社会課題の解決のために有効に機能すると考えています。

長期的なビジョンと日々の業務

昨年、当社は企業理念のブラッシュアップを行いました。しかし、単なる言葉や文言の修正だけでは意味がありません。私たちの行動指針として、日々の業務に落とし込んでいくことこそが必要です。

そのためにも、社員との共生の深化が重要となります。社員一人ひとりが会社の方針を理解し、自分の役割を認識することで、会社と社員が共に成長することができます。そして、その先にあるものは、社会に価値をもたらす事業展開です。社会課題の解決に真摯に取り組むことで、結果として事業の継続に必要な成果はついてくると信じています。これこそが、企業の存在意義だと考えています。

変化の激しい時代だからこそ、ぶれない軸を持つことが不可欠です。30年、50年先を見据えた長期的なビジョンと、目の前の仕事に全力を注ぐ姿勢。一見矛盾するように思えるこの二つの姿勢を両立することが、持続的な成長につながると考えています。いまはまだ見えない将来の世代も、私たちにとって大切なステークホルダーです。

私たち天野エンザイムは、この大きな変革の時代に、酵素を通じて社会課題の解決に貢献していく所存です。世界各地の風土や多様な文化によって磨かれた伝統の知恵を大切に受け継ぎながら、それらを最先端技術と融合させることにより、持続可能な社会の実現に向けて尽力してまいります。ステークホルダーの皆様には、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



イノベーションセンター

酵素—無限の可能性を求めて

2019年に創業120年をむかえた天野エンザイム。
わたしたちは、酵素のスペシャリストです。

酵素は、すべての生き物の命の働きを支えているたんぱく質の一種です。

言い換えれば、生き物は酵素がなければ生きられません。

そしてそんな酵素を作ってくれるのは、
土壌や人の腸内にいる細菌や微生物を含む全ての生き物なのです。

それぞれ固有の働きを持つ酵素の種類は8,000種以上。

しかしシンプルにいうと有機物を分解したり、合成したり、
変化させたりするための手助けをしています。

酵素はわたしたちの暮らしのいたるところで世界を豊かにしています。

世界をおいしくしています



パンをふわふわにしたり、
お肉を柔らかくしたり、
調味料の味を深めたり、
身近な食べ物の中で
酵素の力が役に立っています。

世界を健康にしています



消化薬として胃もたれを防いだり、
病気の診断に活用されたり、
再生医療のお手伝いをしたり、
医療の世界で昔も今も、
これからも活躍します。

世界を便利にしています



洗剤や化粧品の効果を高めたり、
工業製品の素材を作り出したり、
水質の浄化など、
いつもの暮らしの见えないところで
様々な働きを助けています。

わたしたち天野エンザイムは
深海からジャングル、果ては成層圏まで、
多様な微生物から酵素の働きを見つけだし、
世界各地にソリューションとして提供しています。

その精神は、はるか昔より
和の文化、風土で育まれ
受け継いできたものです。

味噌、醤油、日本酒に代表されるように
酵素という見えない力をかりて自然と共生し、
限られた物を活かし、
恵みをより豊かにしていく知恵。

そう、日本は古来から
バイオテクノロジーの国でした。

いま、最先端の技術によって発見された
より豊かな酵素のパワーが、
食料、エネルギー、資源、環境問題といった
山積みの課題の解決に向けて、注目され始めています。

地球の声に耳をかたむけて
自然の力に助けられながら、
わたしたちは今日も酵素とともに
新しい未来を生み出し続けます。

見えないもので
世界はできている

現代社会の様々な課題解決の可能性を持つ、
酵素の専門サイトを是非ご覧ください。
<https://mienaimono.jp>

従来の食品・医療品分野で培った酵素技術を起点に、
農業、エネルギー、素材、環境保全など、
持続可能な社会の実現に向けて
酵素が貢献できる可能性のある多様な分野を
追求しています。



食品 × メディカル分野

タンパク
糖
油脂
調味料
フレーバー
醸造

消化
サプリメント
キラル合成
診断薬
再生医療

両分野での知見を生かした、創造力溢れるアプリケーション
開発と安全・安心を担保する品質保証

麹培養 × 液体培養

カビ

酵母
細菌

二つの生産方式とそれを支える技術力で、
様々な発酵生産物の製造を実現

バイオ技術 × 伝統技術

遺伝子組み換え
タンパク質工学
ゲノムスクリーニング

自然界からの
スクリーニング
育種

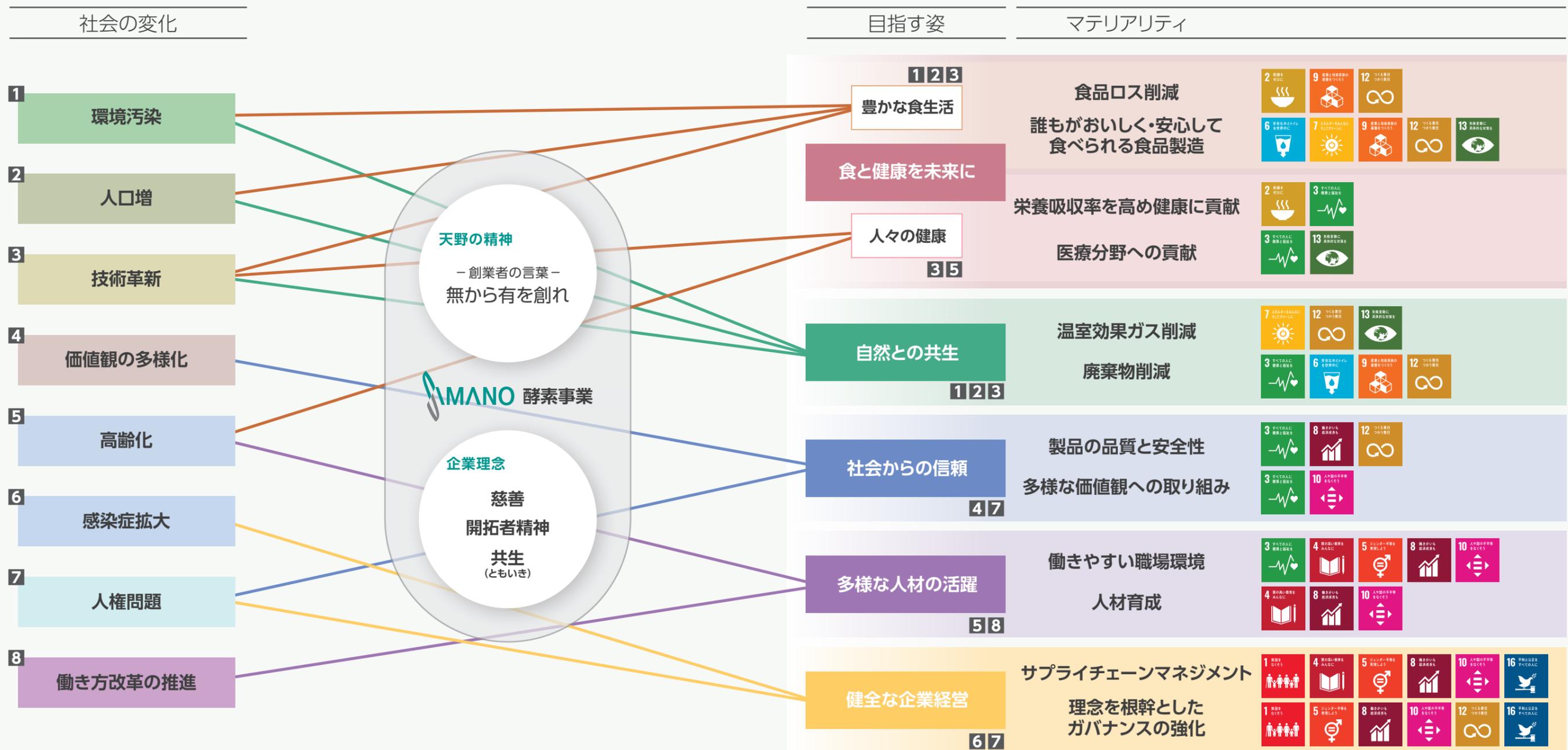
先端バイオ技術と伝統的発酵技術の融合により、
ユニークな価値を創造する研究開発

酵素とともに、人・地球の未来に貢献する。

私たち天野エンザイムは、経営理念である「共生」の思想に基づき、社会の持続的発展に向け事業活動に取り組んできました。人口増加による食糧不足や環境汚染など、世界中で様々な社会問題が顕在化しています。その中、酵素事業を通じてより天野らしい社会的責任を果たしていくため、私たちは社会課題を起点に5つの目指す姿を定め、取り組むべき課題を抽出しました。天野はこれらの取り組みを通じてSDGs達成に貢献し、「共生」の実現に向け努めてまいります。

SDGs (Sustainable Development Goals)

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。



食と健康を
未来に

酵素で食と健康を未来に届ける

酵素で、誰もが豊かな食と健康的な生活を享受できる世界を目指します。

酵素は食べ物のおいしさを引き出します。また、日持ち向上によりフードロスも低減できます。

再生医療や予防医療分野にも酵素が用いられ、健康寿命の延伸に貢献しています。



自然との
共生

環境負荷を低減し、豊かな未来を持続的に守る

地球温暖化や廃棄物問題は世界中の人々にとって、全力で取り組むべき重要な課題です。

未来にわたり持続可能な社会を実現するため、私たちは事業を通して環境負荷低減に取り組めます。酵素の製造過程により発生する温室効果ガスや廃棄物の削減だけでなく、酵素製品を通じ環境負荷の低減に貢献します。



社会からの
信頼

一歩先を行く安全・安心な製品の提供

製品メーカーとして製品品質の安全・安心をお客様にお届けすることが使命です。

製品品質やアレルギー、宗教対応等、製品のあらゆる情報をいち早く提供し、お客様の満足につなげます。また、世界各地で発生する問題をAI、DXといった最新技術を活用し、品質に関する課題解決策を提供します。



多様な
人材の活躍

誰もが活躍できる、活気あふれる企業風土をつくる

当社は、「人の頭脳こそ資本である」という創業者の言葉通り、人材を最も重要な経営資源の一つとして捉えています。

そのため、社員の健康の維持・増進を支援し、一人ひとりがいきいきと働くことができる環境づくりに取り組みます。また、多様な人材が成長し能力が発揮できる働き方改革を推進します。



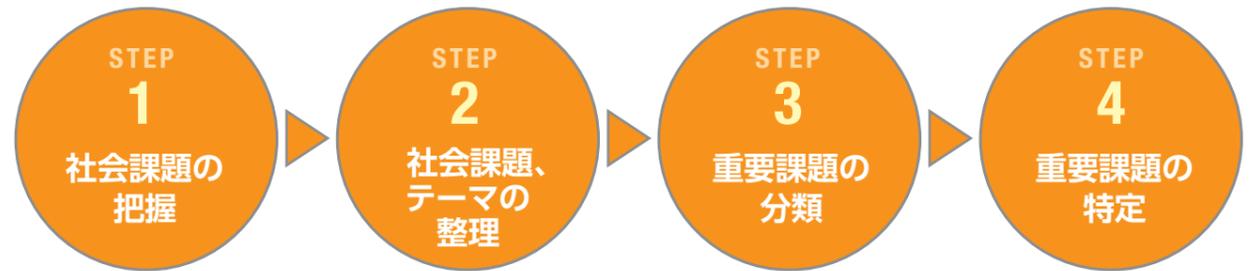
健全な
企業経営

高い企業倫理に基づく事業活動

企業の社会的責任を果たすため、私たちは法令を遵守するのは元より、高い企業倫理の徹底により、一人ひとりが良き企業市民として、皆様の信頼と信用に応える企業であり続けます。



マテリアリティ(重要課題)決定プロセス



STEP 1
社会課題の把握

天野の理念、事業、方針だけでなくISO26000等の規律、パリ協定やSASBの評価項目を参考に社会課題、テーマをリストアップ

STEP 2
社会課題、テーマの整理

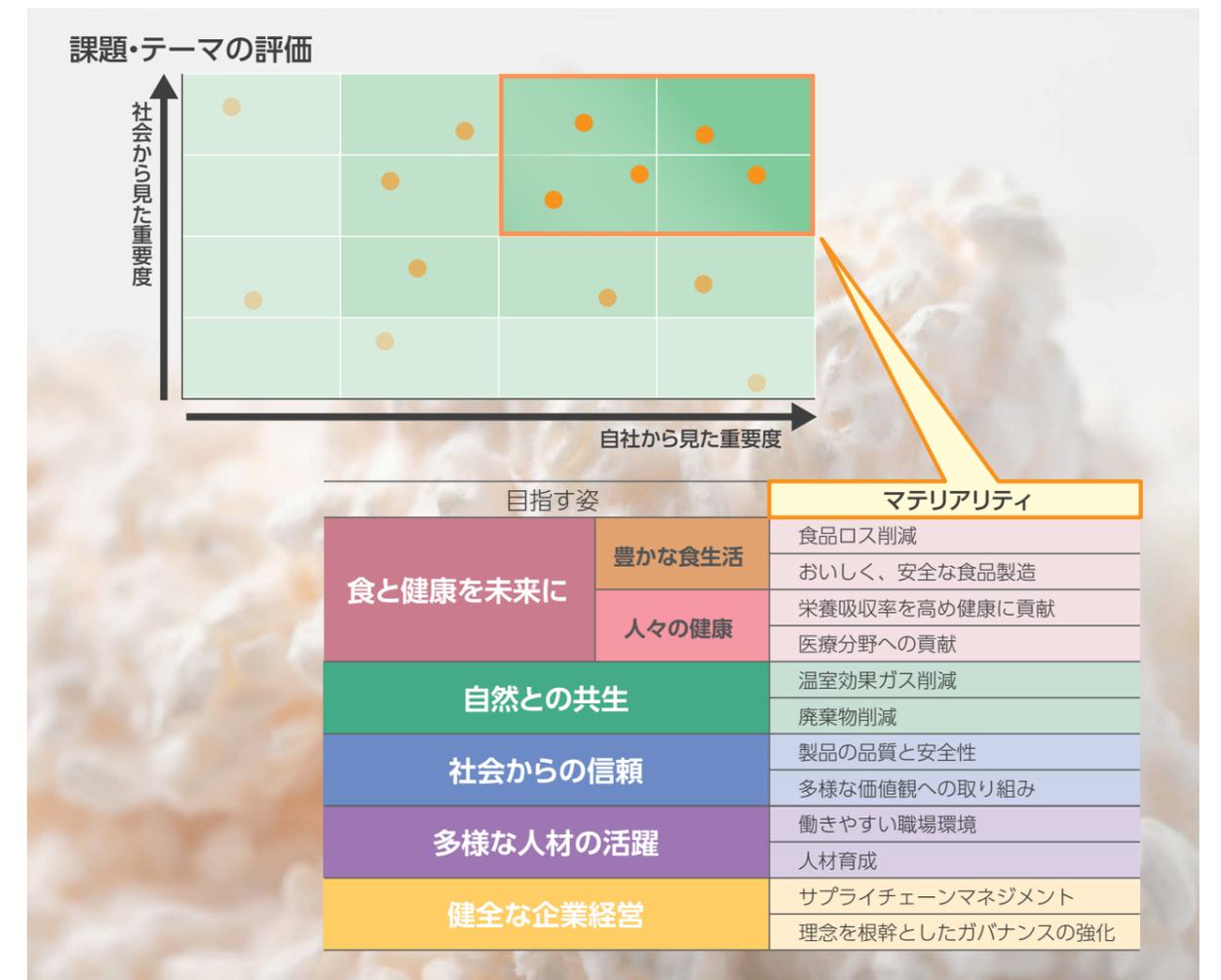
天野の取り組みを各社会課題・テーマへ当て嵌め、社会課題リストとの関連性や重要度から5つのカテゴリに分け、目指す姿を設定

STEP 3
重要課題の分類

カテゴリごとで課題・テーマを事業活動における重要性と照合し、「社会から見た重要度」と「自社から見た重要度」の2軸で総合的に評価して優先順位づけ

STEP 4
重要課題の特定

抽出された項目について、経営層による確認を経て「天野グループのマテリアリティ」として特定

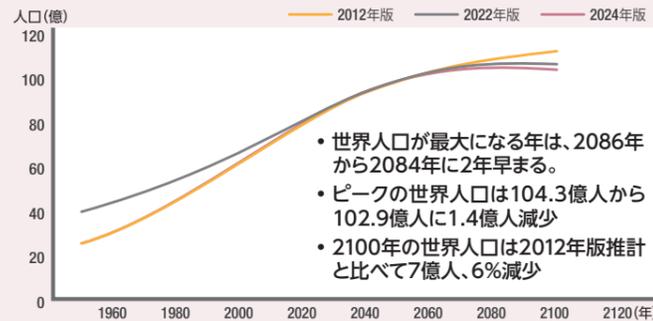


食と健康を未来に

酵素で食と健康を未来に届ける

酵素で、誰もが豊かな食と健康的な生活を享受できる世界を目指します。
 酵素は食べ物のおいしさを引き出します。日持ち向上によりフードロスも低減できます。
 再生医療や予防医療分野にも酵素が用いられ、健康寿命の延伸に貢献しています。

世界を取り巻く環境認識



- 世界人口は2050年代に97億人に達する(国連世界人口推計2024年版)
- 世界の食品ロスは、食料生産量の約3分の1に相当する(FAO)
- 気候変動が食料生産に与える影響への懸念により、適応策と緩和策の重要性が増加
- 2050年までに世界の60歳以上の人口は21億人に達する(WHO)
- 食品廃棄物削減とアップサイクリングの取り組み加速

天野エンザイムの重要課題と2030年までの目標

豊かな食生活

食品ロス削減
 食品ロス削減への貢献

誰もがおいしく・安心して食べられる食品製造
 誰もがおいしい食品を安心して食べられる

人々の健康

栄養吸収率を高め健康に貢献
 食べることの楽しみで生活の質を向上

医療分野への貢献
 誰もが健康的な生活を過ごせる社会の実現

豊かな食生活

食品ロス削減



酵素の中には食品加工の際に使用することで、様々な食品をおいしい状態で長持ちさせることができるものがあります。また、食品加工残渣などの廃棄食品を別用途、別製品として再利用する際にも酵素は活躍します。天野エンザイムは酵素を通じた食品の消費期限延長や、企業のアップサイクルを支えることで、食品ロス削減に貢献します。

誰もがおいしく・安心して食べられる食品製造



食品加工において酵素はおいしさ、物性、製造効率の向上を目的として使用されます。例えば、植物性タンパクのうま味を引き出したり、結着性をよくするのに用いられています。また、酵素による化学反応は、他の触媒や試薬を用いた化学処理よりも環境負荷が低いことが知られています。これからも、誰もがおいしい食品を安心して食べられるよう、酵素を開発し、循環型社会の実現に努めます。

人々の健康

栄養吸収率を高め健康に貢献



天野エンザイムは75年ほど前からジアスターゼやビオデアスターゼ、パンクレアチンなど、胃もたれや消化不良の解消に効果的な酵素剤を製造販売してきました。天野は現在も、世界的な高齢社会への突入、健康志向の高まりの中、おいしく、健康に食事を楽しめるような酵素剤の研究開発を行っています。

医療分野への貢献



血糖値など血液中の物質の高精度な診断や、再生医療で細胞の回収率向上に用いるなど、天野の酵素は医療分野でも人々の暮らしを支えています。天野エンザイムはこれからも、酵素の提供を通じて、人々の健康維持増進に貢献し、誰もが健康的な生活を過ごせる社会の実現に努めます。

食と健康を未来に 酵素で食と健康を未来に届ける

豊かな食生活

食品ロス対策

関連する主なSDGs



酵素の多様な活用法

当社は、多様な酵素の力を活用して食品ロス低減に取り組んでいます。
例えば、澱粉食品は時間の経過とともに硬くなり、特に低温保存で顕著になりますが(澱粉の老化)、酵素の中にはこの老化を抑制する働きを持つものがあります。酵素で澱粉の構造を変えることにより、食品の柔らかさとおいしさをより長く保つことができ、賞味期限を延長することができます。
また、食品加工時に出る残渣(魚や肉の骨、果物や野菜の皮など)から、有用性のあるものに変えることもできます。酵素を使って資源の有効活用に取り組んでいます。
これらの酵素の働きを通じて、より持続可能な食品産業の実現を目指しています。



人々の健康

栄養吸収率を高め健康に貢献

関連する主なSDGs



減塩・減糖とおいしさの共存

生活習慣病は世界的な健康課題です。その予防には、日々の食生活の改善が欠かせません。健康的な食事は味気ないと思われがちですが、酵素を用いることで、おいしさと健康を両立できます。
酵素には食品の味わいを引き出す能力があります。この特性を活かすことで、塩や砂糖の使用量を減らしてもおいしさを保つことができます。例えば、酵素処理によって食材の旨味を増強すれば、減塩しても満足できる味わいになります。また、食品中の澱粉から糖を生成することで加糖量を減らすこともできます。
このように、食品加工に酵素を活用することで、よりおいしく健康的な食生活が可能になります。



誰もがおいしく・安心して食べられる食品製造

関連する主なSDGs



食品の安定供給に向けて

世界人口は2050年に97億人に到達すると予測され、食料問題の深刻化が懸念されています。食料の安定供給や効率的な利用が急務となる中、酵素は有効な解決策の一つとして期待されています。
近年問題となっているカカオ豆の生産量不足に対し、酵素を用いてパーム油からカカオバター代替脂を製造することで、チョコレートの安定供給が可能となります。
また、コーヒーや茶の抽出時に酵素を活用し、抽出効率を高めることで、コーヒー豆や茶葉を無駄なく利用できます。
このような酵素を用いた食品原料の代替や加工効率の向上を通じて、食料の安定供給と環境負荷の低減が可能となります。



代替肉、代替乳分野でも
酵素は使われています

医療分野への貢献

関連する主なSDGs



医療を支える酵素技術

酵素は、医療現場でも重要な役割を果たしています。例えば、糖尿病患者の血糖値測定には、酵素が使用されています。血液中のブドウ糖と反応した酵素量から、正確な血糖値を測定できます。
また、医薬品製造においても酵素が活躍しています。特に、医薬品中間体の製造では従来の化学的合成法と比べ、温和な条件で反応させることができるため、環境負荷が低いのが特徴です。
このように、酵素は医療分野においても患者の方の生活の質向上や、環境にやさしい医薬品製造の実現に貢献しています。



自然との共生

環境負荷を低減し、豊かな未来を持続的に守る

地球温暖化や廃棄物問題は世界中の人々にとって、全力で取り組むべき重要な課題です。未来にわたり持続可能な社会を実現するため、私たちは事業を通して環境負荷低減に取り組めます。酵素の製造過程により発生する温室効果ガスや廃棄物の削減だけでなく、酵素製品を通じ環境負荷の低減に貢献します。

関連する方針・対外評価
環境方針、ISO14001
<https://www.amano-enzyme.com/jp/corporate/csr/>
<https://www.amano-enzyme.com/jp/whyamano/quality/>

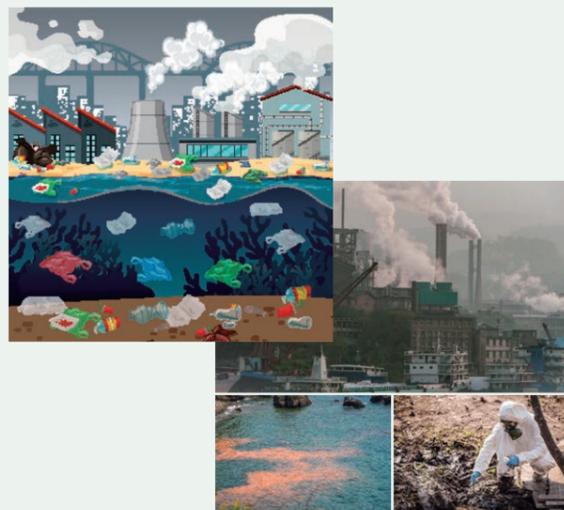
世界を取り巻く環境認識

世界の年間平均気温



産業革命前 ※IPCCデータより

- 世界の平均気温の上昇は、2030年代には1.5°Cに達する可能性が高い(IPCC)
- 海洋プラスチック汚染の増加



- 生物多様性の急速な損失
- 森林破壊と砂漠化の進行

天野エンザイムの重要課題と2030年までの目標

温室効果ガス削減

CO₂ 排出量
2020年度比 **46%削減**

2030年CO₂ 排出量目標値: **16,570t-CO₂/年以下**

廃棄物削減

廃棄物排出量
2020年度比 **46%削減**

2030年廃棄物 排出量目標値: **5,230t/年以下**

温室効果ガス、廃棄物削減への取り組みとして、以下の3点を行っています。

- ① ライフサイクルアセスメントの実施による、環境負荷の発生源、改善箇所の特定
- ② 新たな技術の開発や、既存技術の横展開
- ③ ISO14001推進による環境負荷の低減

私たちは、下記の目標を実現するための施策について、ISO14001に則った環境マネジメントシステムにおいて進捗を管理するとともに、目標の修正やKPI設定、変更などを行っています。

温室効果ガス削減

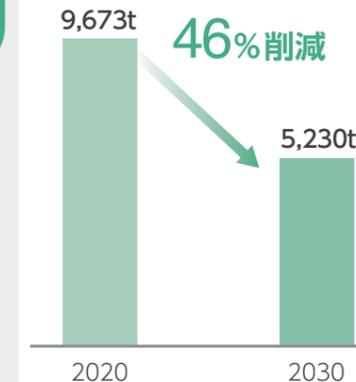
2030年
までの目標



- ① ライフサイクルアセスメントの活用
 - 環境負荷の発生源、改善箇所を特定する
 - エネルギーや水の使用量、CO₂排出量を把握する
- ② 新たな技術の開発や、既存技術の横展開
 - エネルギーの利用効率を向上させる
 - 消費エネルギーの削減
 - 再生可能エネルギーの利用推進
 - 生産性の最大化
- ③ ISO14001推進により環境負荷を低減する
 - 消費エネルギーの削減

廃棄物削減

2030年
までの目標

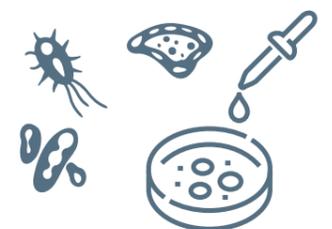


- ① ライフサイクルアセスメントの活用
 - 環境負荷の発生源、改善箇所を特定する
 - 製品毎の廃棄物排出量を把握する
- ② 新たな技術の開発や、既存技術の横展開
 - 廃棄物の削減、再資源化を進める
 - 3R: リデュース(削減)、リユース(再利用)、リサイクル(用途開発)
 - 生産性の最大化により、天然資源の有効活用を図る
- ③ ISO14001推進により環境負荷を低減する
 - 廃棄物排出量の削減

Topics 微生物取得方法

酵素製造に用いる微生物は、自然界より取得し、主に自然環境で生じ得るものと同様の反応を用いて改良しています。

天野エンザイムは、創業以来120年余り、自然と共生する日本の文化・伝統の中で育まれてきました。私たちは、酵素製造の際の微生物利用に関してもこの自然との共生を大切にしています。



自然との共生

環境負荷を低減し、豊かな未来を持続的に守る

温室効果ガス削減

関連する主なSDGs



名古屋工場の廃水処理

天野エンザイムは、名古屋工場にて廃水の嫌気処理によるバイオガス回収の運用を行っています。嫌気処理は、酸素のない環境下で微生物が有機物を分解する処理のことで、その過程で発生するバイオガス(メタンガス)を回収し、エネルギー源として利用可能です。

2023年度のバイオガス回収量は2020年度比129%増を達成し、工場内でボイラー燃料などに利用することで化石燃料の代替とし、CO₂排出削減に貢献しています。

その他、設備の効率化や高効率機器への更新等を実施してきましたが、2023年度の天野エンザイムの温室効果ガス排出量は、生産量の増加により2020年度比1.8%増加しました。一方で、売上単位あたりに換算すると2020年度比で24.1%減少させることができました。継続的な改善を通じて、温室効果ガス削減に向けた取り組みを推進してまいります。



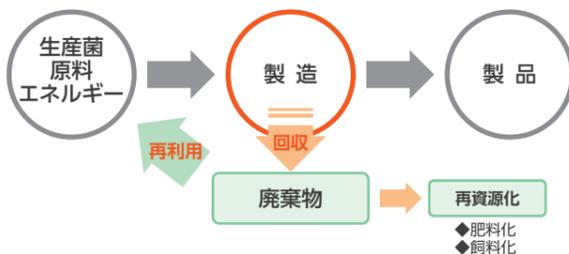
廃棄物削減

関連する主なSDGs



産業廃棄物の有効利用

天野エンザイムは、2023年より養老工場で新たな廃棄物削減の取り組みを開始しました。廃水処理で発生する余剰汚泥を処理することで、肥料として登録・販売を行っています。これにより、従来は産業廃棄物として処理していましたが、農業用の有用な資源として再利用することができます。この取り組みは廃棄物処理コストの削減を可能にし、さらに循環型社会の実現にもつながります。今後は品質向上や用途拡大を図るとともに、環境負荷の低減と事業の持続可能性の両立を目指していきます。



社会からの信頼

一歩先を行く安全・安心な製品の提供

製品メーカーとして製品品質の安全・安心をお客様にお届けすることが使命です。

製品品質やアレルギー、宗教対応等、製品のあらゆる情報をいち早く提供し、お客様の満足につながります。また、世界各地で発生する問題をAI、DXといった最新技術を活用し、品質に関する課題解決策を提供します。

関連する方針・対外評価

製品安全行動方針、FSSC22000、ISO13485、食添GMP
<https://www.amano-enzyme.com/jp/whyamano/quality/>

世界を取り巻く環境認識



- AIやIoTを活用した高度な品質管理システムの導入が加速
- 環境負荷の少ない原材料や製造プロセスへの移行
- 国際的な食品安全基準の厳格化
- 原材料、製造プロセス、サプライチェーンに関する詳細情報の開示要求

天野エンザイムの重要課題と2030年までの目標

製品の品質と安全性／多様な価値観への取り組み

品質マネジメントの推進
 安全・安心な製品の提供
 適切かつ迅速な情報提供

多様な価値観への取り組み

製品の品質と安全性／多様な価値観への取り組み

2030年
までの目標



品質マネジメントの推進

当社では、第三者機関の認証 (FSSC22000、ISO13485) を取得しており、各分野における品質マネジメントシステムの維持と継続的な改善に努めています。各国の最新の法規制やガイドライン、国際規格に適合した、安全性の高い酵素製品を提供します。また、宗教、Vegan、GMO/Non-GMOなどに対応することで、世界中のお客様に安心して当社の酵素製品を使用していただけよう尽力します。

2030年
までの目標



安全・安心な製品の提供

原材料の受入れから製品の出荷までの全ての工程で製造管理を徹底し、高品質な製品の製造と製品回収ゼロの継続を目指します。全ての原材料を、品質面、供給面において安全性が評価された供給者より購入し、製造・試験検査に係る作業手順及び顧客との取決め事項を遵守することで、目的とする品質に適合する製品を恒常的に製造します。

さらに、工場の自動化やAI・IoTなどのIT技術などの最新技術を取り入れた製造管理を進め、お客様へ更なる高品質な製品を提供するため、日々チャレンジし続けます。

2030年
までの目標



適切かつ迅速な情報提供

製品に関する情報をいち早く提供し、お客様に信頼いただけるコミュニケーションに努めます。文書運用や品質照査へのデジタル技術の導入を進め、適正で効果的な製品情報の管理を目指します。また、各国のレギュレーション情報をリアルタイムで収集し、AI技術を用いたビッグデータ解析の導入検討やインターネットを活用したお客様への正確、迅速、簡潔明瞭な安全性情報の伝達に努めます。

2030年
までの目標



独自の
グローバル品質保証基準
AQSの確立



多様な価値観への取り組み

世界各国のお客様に酵素を使用いただくうえでグローバルなレギュレーション情報の提供がより一層重要となってきております。

このため製品に関するレギュレーション情報の管理方法、情報提供のあるべき姿を考え、PLMシステムの導入検討に取り組みました。

Pick Up!

天野エンザイムの
取り組み

社会からの信頼

一歩先を行く安全・安心な製品の提供

製品の品質と安全性／多様な価値観への取り組み

関連する主なSDGs

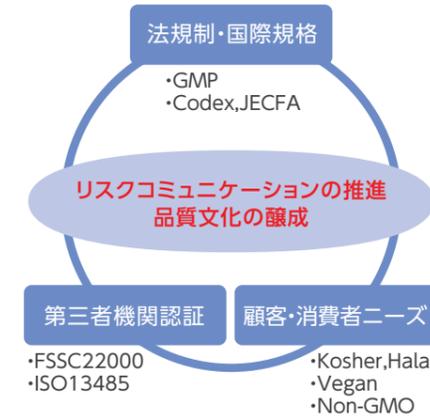


Amanoの品質保証体制

当社では、社外に向けてリスクコミュニケーションを推進しています。品質情報をステークホルダーと積極的に共有します。そして、真摯な姿勢で意見交換を実施します。

社内においては、高い倫理観を育む品質文化の醸成を強化します。

これらを軸に、3つの取り組みを充実させ、世界中のお客様の信頼に応えます。



Amano独自のグローバル品質保証基準の確立

“みんなが笑顔になるために・・・”

人々の多様な価値観を大切にしたい製品をつくり続けていきます。



Topics RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) 認証について

パーム油は生産効率に優れており、世界で最も利用されている植物油です。用途は、食品・化粧品・洗剤・燃料など多岐にわたり、需要は年々拡大しています。それに伴って、主産地の東南アジア域を中心に急速な農園拡大が続き、森林伐採など環境や社会への問題が引き起こされています。

天野エンザイムは、一部の製品にRSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) のSCCS認証を取得し、該当製品の持続可能な原料の調達に努めています (2024年実績)。

多様な人材の活躍

誰もが活躍できる、活気あふれる企業風土をつくる

当社は、「人の頭脳こそ資本である」という創業者の言葉通り、人材を最も重要な経営資源の一つとして捉えています。

そのため、社員の健康の維持・増進を支援し、一人ひとりがいきいきと働くことができる環境づくりに取り組みます。また、多様な人材が成長し能力が発揮できる働き方改革を推進します。

関連する方針・对外評価
健康経営宣言
<https://www.amano-enzyme.com/jp/corporate/health/>

世界を取り巻く環境認識



- 少子高齢化による日本国内の労働人口の減少
- ポストコロナ時代における働き方の多様化の進展
- デジタル化やサステナビリティなどのトレンドによるスキル需要の変化
- テクノロジーの進化とグローバル化によるビジネス環境の変化
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進

天野エンザイムの重要課題と2030年までの目標

働きやすい職場環境

社員の心身にわたる健康の維持・増進
職場環境の多様化

人材育成

社員自らの意志で目標を設定し成長を続けている

アスリート支援

働きやすい職場環境

2030年
までの目標



社員の健康の
維持・増進施策の推進

当社は社員の疾病予防、運動習慣、メンタルヘルスクアを通じて、健康経営を推進し、社員の健康維持・増進に取り組んでいます。健康診断の重要性の啓発や、健康教育としてセミナーの定期実施、同好会活動の積極的支援により、社員の健康習慣の向上を図っています。また、心の健康づくり計画を策定し、社員旅行やスポーツ大会、お昼の社内動画配信等、社員のコミュニケーション活性化に取り組んでいます。

2030年
までの目標



職場環境の多様化

- 国籍
- 障がい
- ライフステージ など

多様な人材と価値観を取り入れ、社員一人ひとりが働きがいをもち、能力を十分に発揮できる柔軟な職場環境づくりに取り組んでいます。外国籍社員の積極的な雇用や、障がいのある方が、その適性に応じて能力を発揮できるような職場環境の改善に取り組みます。また、社員のライフステージに応じた仕事との両立を支援するため、育児休業、介護休業、短時間勤務、休暇等の各種制度を整備しています。女性社員の育児休業取得率は100%となっており、男性社員も必要に応じて育児休業を取得しやすい環境を整備していきます。

人材育成

2030年
までの目標



社員が自ら成長

社員のワークインライフを推進していく中で、社員一人ひとりの主体的な学びと成長を支援し、各種の研修機会を積極的に設けていきます。読解力や課題発見力等の様々なビジネススキル習得の研修を計画的に実施し、また教育ライブラリー(社員講演会、社内作成の教育動画等)の充実を進めます。

Topics グローバル化への対応

グローバル化が進む中で、当社の海外売上比率は7割を超え、毎年その比率は高まっています。

当社は、このような状況において個人の能力向上を積極的に図り、強い「個」の集団を目指しています。

特にグローバル化への対応としては、自己啓発に利用できる制度の拡充や言語学習に係る通信教育の全額補助等、自主的に社員が成長できる環境を整えています。



Topics アスリート支援

天野エンザイムはスポーツの発展を支援するとともに、社内でのスポーツ振興に努めてまいります。

現在フェンシング女子エペの馬場晴菜選手が天野エンザイムに所属しています。社員一丸となり応援し、馬場選手の持つメンタルタフネスやチームワークの精神を得ていきます。さらに彼女のアスリートとしての努力や成功体験は他の社員にとって大きな刺激になっています。



多様な人材の活躍

誰もが活躍できる、活気あふれる企業風土をつくる



健康経営の取り組み

天野エンザイムは、社員がいきいきと働くことができる会社を目指し、社員の健康の維持、増進に積極的に取り組んでいます。
当社は、健康経営に関する取り組みが評価され、2020年より健康経営優良法人に認定されています。

関連する主なSDGs



スポーツエールカンパニー取得

天野エンザイムは、スポーツに通じた取り組みが認められ、スポーツ庁から2021年より「スポーツエールカンパニー」に認定されています。当社では、持続可能な成長を実現する上で、社員と家族の心身にわたる健康の維持・増進は、会社の重要な基盤と考えています。スポーツジムの利用、スポーツ観戦等への支援をはじめスポーツの持つ効果を積極的に健康経営に取り入れています。



健康経営へ向けた取り組み



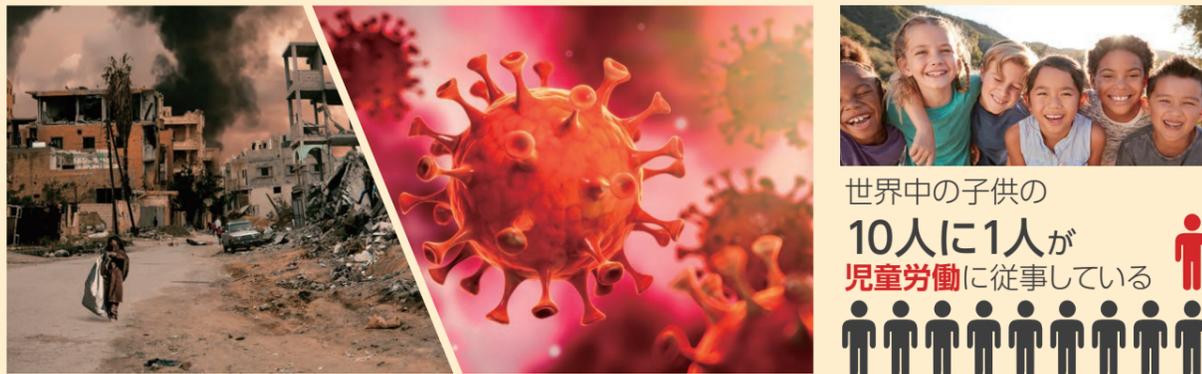
健全な企業経営

高い企業倫理に基づく事業活動

企業の社会的責任を果たすため、私たちは法令を遵守するのは元より、高い企業倫理の徹底により、一人ひとりが良き企業市民として、皆様の信頼と信用に応える企業であり続けます。

関連する方針・対外評価
 調達の基本方針、企業倫理基準、英国現代奴隷法声明文
<https://www.amano-enzyme.com/jp/whyamano/quality/>
<https://www.amano-enzyme.com/jp/corporate/philosophy/>
<https://www.amano-enzyme.com/jp/corporate/csr/>

世界を取り巻く環境認識



世界中の子供の
10人に1人が
児童労働に従事している 

- 気候変動や紛争による食料・水不足、エネルギー危機、サプライチェーンの混乱
- 世界で約2,800万人が強制労働に従事 (ILO)
- 世界中の子供たちの10人に1人が児童労働をしている (ILO)
- ESG投資の拡大により、企業の社会的責任と持続可能性への取り組みが重要視される
- デジタル技術の進歩による産業構造の変化と新たな雇用形態の出現

天野エンザイムの重要課題と2030年までの目標

サプライチェーンマネジメント

持続可能なサプライチェーンマネジメントの実現
 ~お取引先様との共生~

理念を根幹としたガバナンスの強化

健全な経営基盤の実現

サプライチェーンマネジメント

2030年
 までの目標



持続可能な サプライチェーン マネジメント

- CSR監査の充実化
- お取引先様との連携強化
- サプライチェーン全体の共存共栄の実現



天野エンザイムは、企業理念のひとつに「共生」を掲げ、社会やお取引先様と共に持続的に発展することを目指しています。また、環境や人権・労働安全といった社会的側面に配慮した調達方針を定め、責任あるサプライチェーンの構築を推進しています。さらなるグローバル事業の展開と社会的責任の両立を果たすために、CSR監査の充実化、お取引先様との連携強化、サプライチェーン全体の共存共栄の実現に尽力していきます。

これからもサプライチェーン全体で社会課題解決に向けて取り組み、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

理念を根幹としたガバナンスの強化

2030年
 までの目標



健全な 経営基盤の実現



天野エンザイムは、「慈善」、「開拓者精神」、「共生」を企業理念として掲げ、これらを根幹とし、健全な企業体質とガバナンスの確立に努めています。当社は社会の持続的な発展のため、地域社会、お客様、お取引先様、社員、株主などすべてのステークホルダーに対する誠実な事業活動により、健全な企業体質の実現を目指してきました。この考えに基づき、当社は社会の良き一員として持続可能な成長を実現するため、企業倫理基準を定め運用しています。

また社員一人ひとりがこの考えを理解、体現し、社員と会社が共に成長するため、理念フォーラムなどの理念浸透活動や、社員行動基準の運用をしています。天野エンザイムの全役員および全社員が一丸となってより良い企業体質とガバナンスを追求していきます。

健全な企業経営

高い企業倫理に基づく事業活動

サプライチェーンマネジメント

関連する主なSDGs



社会的課題に向けた取り組み

企業のグローバル化が進むにつれサプライチェーン全体で社会的責任を果たす調達(CSR調達)へとシフトしています。お取引先に「天野エンザイム調達方針」、「調達に関するお取引先へのお願い」を理解及び賛同いただくとともに、下記に取り組み、課題解決を実現します。



取り組み成果

- 「パートナーシップ構築宣言」の公表
- 定期的にワークショップを開催し知識向上と情報更新
- 原料規格書情報をサプライヤーとクラウドシステム上で共有し連携強化



理念を根幹としたガバナンスの強化

関連する主なSDGs



理念浸透活動：理念基礎研修

2023年より、全社員が企業理念を自分の言葉で説明できるよう、新入社員向けの理念基礎研修を年2回(10月と2月)実施しています。

各半日のプログラムでは、講義やディスカッションを通じて企業理念の本質や理念に込められた想いを学びます。前編では理念の理解と体現に重点を置き、後編では倫理基準の遵守や社会的責任について深く考察します。また、理念大賞受賞者との対話を通じて、理念の実践例を学ぶ機会も設けています。

これらの取り組みにより、理念を基盤としたガバナンスの強化と企業文化の醸成を図っています。



天野エンザイムの社会貢献活動

学術支援

関連する主なSDGs



酵素応用シンポジウム



酵素に関する研究開発を助成し、日本の科学技術の振興に貢献することを目的に、創業100周年の2000年5月に第1回を開催し、今年で第26回をむかえました。

今では、酵素の応用・関連情報ばかりでなく、異分野のトピックスや文化的な内容も企画講演として提供しています。

災害復興支援

関連する主なSDGs



東日本大震災復興支援



過去の活動の様子

天野エンザイムは、震災後、社員からの募金と会社からの義援金により3年間東北の支援へ行ってきました。その後はボランティア派遣の形での支援を行い、今では社員旅行の一つとして引き継がれ、新入社員も参加する行事となっています。

天野エンザイムの取り組みとSDGsとの関連

天野エンザイムでは、SDGsと関連する様々な商品・サービスの提供やサステナビリティの取り組みを行っています。これらをさらに推進するため、この度ESG重要テーマごとにおもな目標項目を整理し、マテリアリティ(重要課題)を抽出するとともに、天野エンザイムの取り組みとの関連性をSDGsの17の目標と169のターゲットに照らして検証しました。

●おもに関連するSDGs目標 ○関連するSDGs目標

ESG	ISO26000 中核主題	天野企業方針	ESG重要テーマ	天野の主な目標項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17				
E	環境	企業活動を通じて、自然環境の保全と資源の保護に貢献すべく、環境方針に従い、継続的な環境改善活動に取り組みます。	気候変動・大気汚染の防止	CO ₂ 排出量削減			○3.9					●7.3	●8.2 ●8.4	●9.4			●12.2	●13.2							
				脱炭素化																					
				代替タンパク質の推進																					
				生産性向上																					
				育種・スクリーニング																					
				省エネルギー推進																					
			省エネルギー推進	省エネルギー推進																					
				再生可能エネルギー推進																					
			生物多様性の保全	生物多様性保全																					
				動物福祉の尊重																					
				食品ロス低減																					
				廃棄物削減																					
廃棄物とリサイクル	廃棄物削減																								
	土壌、水質保全																								
S	公正な 事業慣行	●お客様との取引は誠実かつ公正に行い、健全な関係を構築します。 ●原材料や商品、サービスの購入先は公正に比較、評価して決定します。 ●いかなる贈賄・談合にも関与しません。	公正な取引の遵守	公正な取引の遵守	●1.2	○2.3																			
			公正なマーケティングと広報																						
	サプライチェーンマネジメント	サステナブル調達	●1.1 ○1.3	●2.4																					
		サプライチェーンマネジメント																							
	消費者課題	私たちは安全な製品をお届けするとともに、安心いただけるサービスや情報の提供に努めます。	健康価値の訴求	COVID-19対策																					
			食を通じた健康貢献																						
			乳幼児、子供の健康への貢献																						
			高齢者の健康への貢献																						
			疾病の診断・治療・予防																						
			個人情報保護	情報セキュリティ確保																					
	製品の品質と安全性	製品の品質と安全性																							
		多様な価値観対応																							
製品の求めやすさ																									
適切な情報公開		製品表示																							
人権	本人の意思に反した強制労働、ハラスメントなどの非人道的扱い、あらゆる差別を排除し、法令で定められた就労年齢を遵守します。	人権の尊重	人権啓発																						
		児童労働の撤廃	●1.1																						
		強制労働の撤廃	●1.3																						
		働きやすい職場環境																							
		結社の自由の尊重																							
		労働安全衛生の推進																							
		従業員の健康・安全	従業員の健康維持・促進																						
		人材育成	人材育成																						
		人事・福利厚生	雇用・処遇の平等																						
		最低賃金の確保	●1.1 ●1.3																						
		ダイバーシティ	ダイバーシティ実現																						
		ジェンダー平等																							
コミュニティ への参画 及び発展	コミュニティと地域活動	コミュニティと地域活動																							
	コミュニティと環境・文化	コミュニティと環境・文化																							
	コミュニティと産業育成	オープンイノベーション																							
	コミュニティと人権課題	コミュニティと人権課題																							
	コミュニティと震災復興支援	コミュニティと震災復興支援	●1.1 ●1.5	○2.4																					
G	組織統治	コーポレートガバナンス	グループガバナンス																						
		コンプライアンス	コンプライアンス意識の浸透																						
		リスクマネジメント	実効性のあるリスクマネジメント																						
技術漏洩、菌株漏洩																									
災害等発生時の事業継続																									

※天野の主な目標項目の着色…主に関連する目指す姿 ●:食と健康を未来に ●:自然との共生 ●:社会からの信頼 ●:多様な人材の活躍 ●:健全な企業経営

日本から、世界へ。



愛知の本社を中心に、国内に3つの工場と研究所、事務所を展開。世界では5つの地域で事業を展開し、創業以来120余年にわたり、日本の伝統・技術を大切にしながら、独自性のある製品・サービスを広く世界へ提供しています。

国内拠点



養老工場



滋賀工場



イノベーションセンター



東京事務所



品証センター



本社



名古屋工場



酵素 - 無限の可能性を求めて

天野エンザイムサステナビリティレポートに関するお問い合わせ先

総務部 経営企画チーム
〒460-8630 愛知県名古屋市中区錦一丁目2番7号
TEL: 052-211-3036 FAX: 052-211-3046
E-mail: sustainability_report@amano-enzyme.com
URL: <https://www.amano-enzyme.com/jp/>

